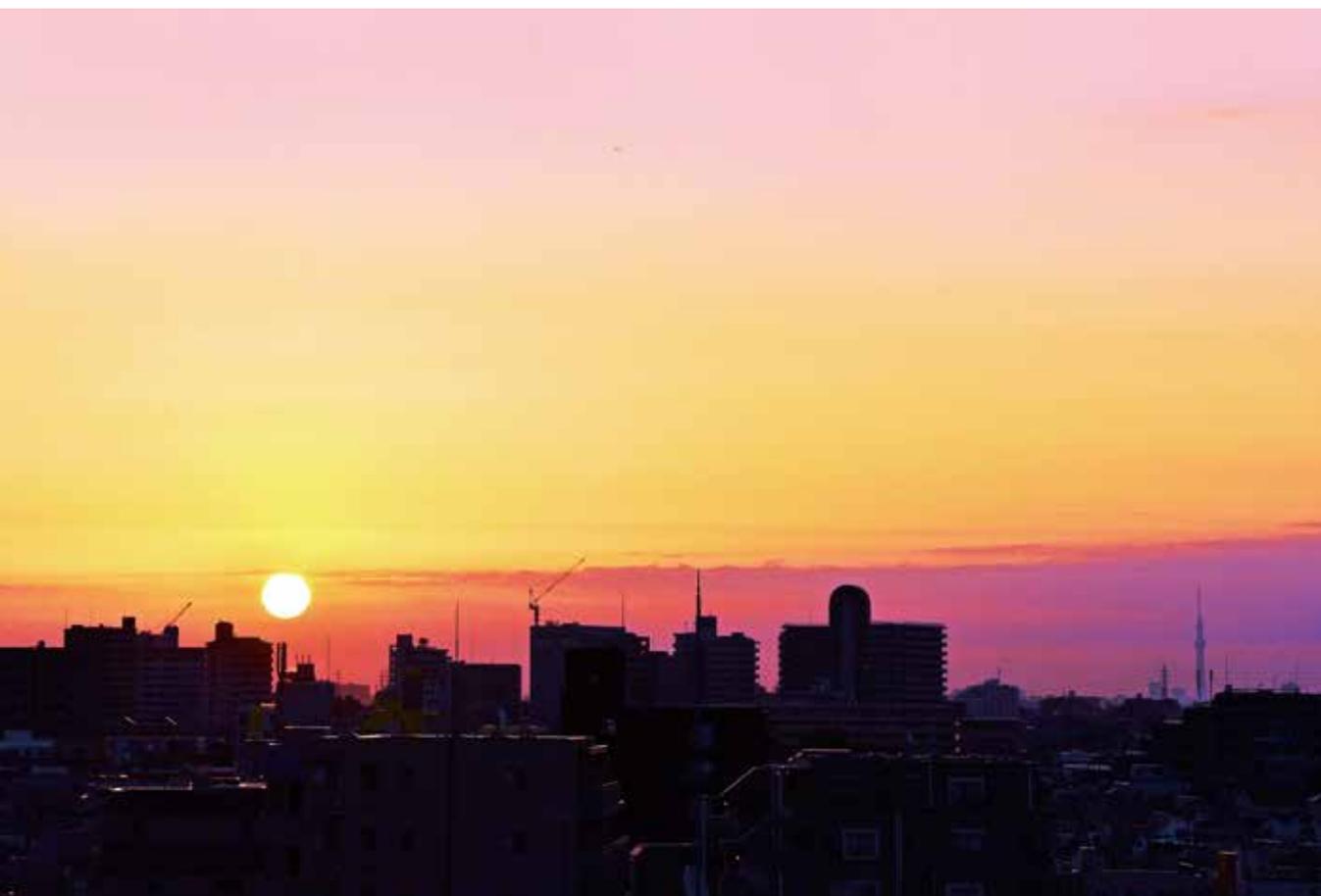


ゆうゆう通信

埼玉県新座市シルバー人材センター会報



初日の出・新座市北野から

— 目次 —

- | | | | |
|-----|--------------------|------|-----------------|
| 2 頁 | コロナに打ち克つ | 7 頁 | 新座市内をもっと楽しみましょう |
| 3 頁 | 希望呼び込む一年に | 8 頁 | 言いたい放題 時事呆言 |
| 4 頁 | 安全委員会報告／シルバー派遣会員研修 | 9 頁 | 私のゆうゆうエンタメ |
| 5 頁 | 就業開拓委員会報告／総務委員会報告 | 10 頁 | シルバー私のスナップ |
| 6 頁 | 新・職場探訪 | 11 頁 | 親睦会だより |
| | | 12 頁 | SC掲示板／編集後記 |

コロナに打ち克つ 希望呼び込む一年に

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

センター活動にご理解と協力をいただいている会員の皆様をはじめ変わらぬお引き立てをいただいている発注者、各企業、新座市、そして市民の皆様衷心より御礼を申し上げます。旧年は新型コロナウイルスの影響ばかりではなかった。就業への活動にとつて、親睦シヨンも十分に図れない厳しい年は改まりましたが、コロナウ

イルスの終息は未だ見通せず、なお耐え忍ぶ年になることが予想されます。こういう時こそ家族や仲間や地域の方々々と心を一つにして、感染への注意を怠りませぬよう難局を乗り切っていただきたいと思ひます。皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

新座市シルバー人材センター理事長 福島 和男



新座市シルバー人材センター理事長 福島 和男

ルズに明け暮れた感のある一年でした。会員の繋がりを大事にしてきまなからず研修もコミュニケーション

新座市シルバー人材センター(SC)の活動を支える事務局。「〇〇さん、電話です」と元気な声が飛び交う。年が明けても、職員の仲間意識は変わらない。昨年は、コロナ禍で、SCは深刻な影響を受けた。「未曾有の危機ですよ。感染防止に万全を期し、全員が力を合わせて、乗り越えるしかない」(船津事務局長)。

世界中を混乱させた新型コロナウイルスは終息に向かうのだろうか。不安と希望が入り混じる年の初めを迎えた。

影落とすコロナ禍

事務局には、職員、SC会員ら21人が働いている。外部からの電話は手の空いているものが取れる決まりだ。11月中旬、たまたま林SC会員が受話器を取った。就業会員からコロナ感染の報告だった。報告を受けた片山事務職員がすぐに動いた。本人より症状などの状況を聞き、「濃厚接触者の可能性がある場合は保健所から指示がある」との連絡を受け、直ちに事務局長及び就業先等関係方面へ連絡した。初めてのことで多少慌てたが、あれこれ手を打った。幸い感染した本人は短期入院で既に回復、陰性も確認され就業に復帰することになった。

コロナ禍は新座SCにも重苦しい影を落とす。就業先が閉鎖や人員の縮小に動き、契約高や就業人員が減った。事務局集計によると、今年度4月から11月までの累計で、就業の実人員は1389人。昨年度に比べ119人減った。好調だった派遣事業も4月から月間で一度も昨年度実績を上回ったことがない。

感染を防止し活動

「苦境の時は、原点を確

認する」と船津事務局長。SCの原点は、高齢者の丁寧な仕事、そして地域貢献。SCは総務、会員開発、広報、業務、安全、就業開拓、地域活動、成年後見と8委員会に分かれ、各委員会の委員が話し合っ活動を進める。委員会活動を支えてい

るのが事務局だ。

委員会活動は、ほぼ昨年春先からの自粛ムードを経て、感染防止に注意し徐々に活動を再開させている。安全ニュースの発行、入会説明会、公園清掃などの地域活動。

逆に活性化した事業もある。「相談件数が増えました」と話す成年後見委員会の金枝委員長。身寄りがない高齢者、認知症でお金の管理ができなくなった人などの手助けをする。「今、4件を支援中ですが、10件ほどは可能です」

トンネルを抜け出す

「重要な情報は回覧板を回し、職場全体で共有します」(片山職員)。知恵を出し合い、協力し合うことも大事な活動だ。時に趣味の話も。昨年4月、事務局の新戦力となった細沼SC会員。経理を担当する。コロナが収まったら何をしますか、と水を向けると、即座に「旅行に行きたい。予約していたのに自粛しましたから」。嘱託で働く派遣コーデイネーターの諸田さんは、3年前に職場に加わった。「習いたてのゴルフが上手になりました」

福島理事長の座右の銘は、「和です。この言葉に強く惹かれます。助け合う絆と言うことでしょう」

「共働・共助」はSCの理念。チームワークが長いトンネルを抜け出すエンジンになることは間違いない。



安全委員会報告

就業安全指針調査を実施

2020年12月4日(金)
 ・5日(土)の2日間、SC会議室にて、「就業安全調査」「体力測定」「3か月ごとの転倒・転落の状況報告調査」を実施しました。

この調査は高齢者安全就業指針を作成する為に地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所と当SC安全委員会及びフレイル予防サポーターの3者が協力し合って行ったものです。

調査の対象者は前の月に4日以上就業している(SC以外の仕事も含む)会員で、当日は職群班を中心に81名が参加しました。
 スケジュール表に則り午前と午後の部を、それぞれ3グループずつに分け、午前9時から1時間ごとに受付を行い、参加者全員に検温、手指の消毒を実施しました。受付や測定員、アンケートの対応にはフレイル予防サポーターの測定員及



大須賀研究員の調査内容の説明

び安全委員が担当しました。調査を始めるにあたり、大須賀研究員から「働くシニア世代の増加に比例して仕事での転倒・転落事故が約2割起きています。私たちが安心して働けるための健康基準の把握及び標準値を出す為に多くの方のデータが必要なんです。この調査には、埼玉県下の他のSCにも協力していただいています。転倒とは人がほぼ同一平面上で転ぶ場合を言い、つまずきやすべりにより倒れた場合で『まさか自分』と思う事故が多いので

注意してほしい」との話があり、調査の内容とアンケート記入方法の説明がありました。

アンケートの提出は3か月ごとに宛名が記入されている封筒に入れて締切日の1週間前までに無記名で投函。転倒・転落なしの場合でも無記入で必ず提出します。体力測定は①5回椅子座りテスト②ステップテスト③閉眼バランステストの3つ。静まった会場で測定員の「よいい、スタート」の声と共にストップウォッチが動き出すと、皆真剣な表情に変わりました。



体力測定/ステップテスト

ステップテストでは余りにも力強い足踏みでステップ台が転倒するハプニングもありました。体力測定では、初めて経験する動作も

ありきこちない様子でしたが、皆さん楽しく無事に終えることができました。調査に臨んではマスク着用、換気、充分な間隔、飛沫防止など感染対策に十分配慮しました。ご協力いただいた会員の皆様から感謝します。(五十嵐)

フレイル予防サポーター 外部派遣活動

20年10月12日(月)、埼玉県SC連合主催の派遣会員研修が富士見市の文化会館キラリにおいて開催されました。当SCから竹内、大村、中村のフレイル予防サポーター3名がフレイル研修の講師として派遣されました。当SCとしては初めての外部派遣です。

講演内容は、(1)フレイルの説明、(2)栄養の話、(3)準備運動について、(3)準備運動に続き、コンビネーション運動。次にストレッチ、最後につま先・踵上げや太腿上げなどの筋肉運動です。午前の研修の最後40分間と午後の最初の40分間の2

回にわたって講師を務めました。コロナ禍の影響で久々の講演でしたが、3人の役割分担で外部派遣活動ができました。(中村)

埼玉県SC連合 シルバー派遣会員研修

今研修は、派遣就業1年目の会員を対象で午前9時半〜12時半、キラリの会議室にて開催。当SCからは10名の参加で議題は「コミュニケーション研修」

一般社団法人中高年齢者雇用福祉協会の畠山和夫講師により「コミュニケーションとは、人間が互いに意志を伝達しあうキャッチボール。ボールは言葉。話下手でもいい。まず傾聴。耳+目と心で。挨拶とマナー、見た目も大事」などの基本的な解説があった。
 午後1時半〜4時半は2年目以降の派遣会員研修で当SCから2名の参加。テーマは「対人関係・顧客心理理解研修」。午前の内容を深く掘り下げ、日々の就業の中でも役立つ実践的分かり易い内容だった。(石井)

就業開拓

委員会報告

メンタルヘルス研修

2015年12月から労働安全衛生法の一部改正により、ストレスチェックの義務化など、職場のメンタルヘルス対策の必要性が注目されています。厚労省のデータでも、働く人の6割近くが仕事や職場生活において強い不安、悩み、ストレスを感じているとの報告があります。

メンタルヘルスとヘルスケア

メンタルヘルスとは心や精神面の健康状態のことです。メンタルヘルスケアは心や精神を健康な状態に保つことです。すべての働く人が健やかに、いきいきと働けるような気配りと、援助をすること。また、そのような活動が円滑に行われる仕組みを作り、実践することを行います。

企業の生産性や企業価値を向上させる意味でも多く

のメリットがあります。従業員が50人以上の事業所ではすべての労働者に年1回ストレスチェックを実施します。派遣会社の場合は派遣元が実施します。

厚労省はメンタルヘルス対策において4つのケアを推奨しています。①セルフケア②従業員が自分で行う③事業所内資源によるケア④産業医、保健師や看護師などによる④事業場



浜田幸子氏の講演

外資源によるケア②医療機関や相談機関など外部の専門機関による。

今回の研修は派遣会員対象で、自分自身がストレスや心の健康について理解し、

自らのストレスを予防、軽減するセルフケアを学習。一人で解決するのではなく、家族や友人、専門家と相談し、一人で抱え込まないことが大切との事です。

ストレスとストレッサー

ストレッサーとはストレス要因のこと。音がうるさい、暑すぎるなど物理的要因と人間関係のような社会的(心理的)要因があります。

ストレスとはストレス反応のこと。肩こり・胃腸障害などの身体的症状、イライラ・焦り・不安などの精神的症状や食べ過ぎ・酒や喫煙量の増加などの行動的症状があります。自分でどんな症状があるかに気づき、書き出せれば、自分でも対処が可能。

ただし、ひどい憂鬱・不眠・無気力・死にたいなどが2週間続くようであれば躊躇なく専門医へ相談してください。

今研修は、10月28日(水)10時～正午と13時半～15時半の2回、SC会議室で21名

の参加。(株)アール&キヤリア浜田幸子氏の分かり易い解説でした。(石井)

総務

委員会報告

研修会資料配布

20年10月の「リーダー研修」のテーマは「高齢者である会員の新しい生活様式の実践にあたっての留意点」というものでした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となりました。



研修会の資料

このため、研修に代わる資料として「新型コロナウイルス感染症・気を付けた

いポイントと新たな生活様式」を作成し、10月にリーダー層(委員会委員・地区長・正副職群班長・親睦会役員)に配布しました。

新型コロナウイルス感染症に関しては、正しい知識、正しい対処法を知ることが重要ですが、感染を恐れるあまり、家の中に閉じこもり『生活不活発』による健康への悪影響が危惧されます。

「動かないこと」による身体や頭の働きの低下、歩くことや身の回りの事などが行いにくくなり、疲れやすくなるフレイルが進んでしまっています。感染予防とともに体の機能が衰えないように心がけていただければ幸いです。職場の仲間や会員の方々にも回覧、掲示等では非お伝え下さい。

ご存知のとおり、新座市の感染者総数は256人(12月27日現在)。11月は45人と過去最多となり、感染拡大中です。会員の皆様、引き続きご自身の生活に合った「新しい生活様式」の実践をお願いいたします。(山口)

新・職場探訪 敦煌商事(株)

畑中2丁目

朝霞市との境に近い、黒目川沿い畑中2丁目に本店兼作業所・倉庫を構える敦煌商事。モーターバイクのバッテリーを扱う会社です。ここで、新座市シルバ一人材センター(SC)の女性会員2人、丸山正子さんと齊藤早苗さんが派遣事業で就業しています。今回は、その職場を訪ねました。

梱包出荷が担当

敦煌商事は中国の広州と廈門に協力工場があります。そこでバッテリーを生産、



敦煌商事株式会社

日本に輸入しています。輸入したバッテリーは厳格に品質を検査。合格品だけを伝票処理し、梱包し注文先に発送します。SC女性会員は一連の作業工程を担当しています。



いつも笑顔の齊藤、丸山会員

2人に「なぜこの職場を選んだのですか」など、話を聞きました。就業条件でほぼ満足した、という答えでした。就業は日曜を除き、週3日。2人で交代。就業時間は午前10時から15時まで。忙しい時には17時までの時間延長もあるそうです。

働きやすい職場

齊藤さんはSCに令和元年入会。「夫は介護が必要で、10年ほど介護を続けています。介護と仕事が両立できる職場をずっと探しています。

した。SCの募集を知り、即座に応募しました。やっと条件に見合う所が見つかってうれしかったです」

丸山さんは平成23年入会、会員歴10年のベテラン。「本当に働きやすい職場なんです。製品は片手で持てるほどの大きさですが、ズシリと重いです。筋肉トレーニングにはもってこいですよ」と冗談交じり。齊藤さんも丸山さんも敦煌商事に同時期に就業し、働いてちょうど1年になります。

職場の責任者にも話を伺いました。佐渡山勇取締役。佐渡山春平社長のご子息です。気さくで明るい方で、いろいろ聞きました。

まず、ユニークな社名について。「井上靖の小説に敦煌という名作があります。父が大好きなんです。中国に友人がいることもあって、父が命名しました」会社

の創業は1988(昭和63)年。「バイクの修理、

中古車買い取り、販売からスタートしました。現在はバイクバッテリーの販売に特化しています」

仕事は楽しく

佐渡山取締役によりますと、中国で生産しているため、国産品に比べると、安くできます。しかし、安ければいい、ではなく、コストパフォーマンスを追求して頻繁に中国の工場に向き、指導を行っています。



役員ですが、SCの方にはよくやっています。ルールを守り、考え方がしっかりしています。

当社も新型コロナウイルスの影響を受けました。中国との物流が滞りました

元気いっぱい

齊藤さんは手芸が趣味。手作りマスクを職場で配り大変喜ばれました。佐渡山取締役も「腕前はプロ並み」と絶賛。

丸山さんは「歩くことが好きなので、コロナが下火になったら、ハイキングクラブに入ろうかな、と思っています」と、にこやかに2人とも元気いっぱい。和気あいあいの職場でした。

(太刀川)



集中して働く会員です。コンテナで船積みし輸送しています。品目は、ス

ピード感のあるデリバリーが大事なので、常時2千万円ほどの在庫は必要です。ウイルスだけでなく詐欺



1985年頃の志木駅前

志木駅南口ロータリーが完成しました。以前の雑然としたものから、さっぱりとした雰囲気の方に様変わり。洒落てるとも言えず、野暮ったくもない。どちらへ転ぶかは、利用者次第というところでしょう。今回は1985年頃の数少ない志木駅前の写真と比較して懐かしんでください。



2020年11月の志木駅前

きれいに整備された駅前
新装なった現在の志木駅前と比較してみました。古い写真にはノザンCC錦が原ゴルフ場、跡見女子などの文字が見られ、試合出場場の学生がバスを待つ朝の風景と思われれます。公衆電話ボックスが数台並び、電車の架線が丸見えで北口の建物も色々見えています。新駅前にはスッキリ広々ですが、昼前でもありコロナ禍の影響なのか人影がまばら。以前の写真は、駅前の騒々しさと猥雑さが、余計賑やかさを感じさせてくれます。

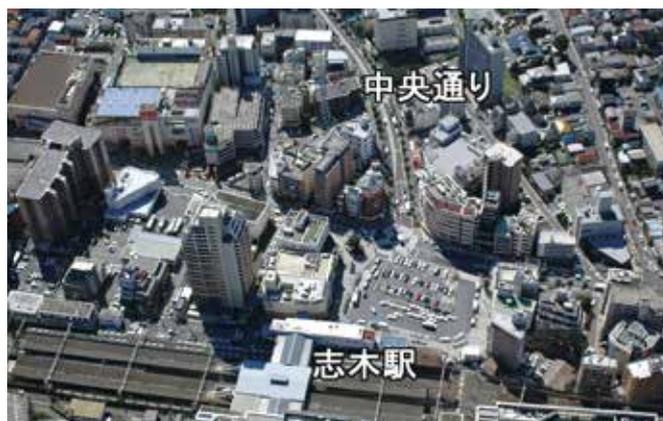
荒天時の志木駅までの道は長靴が絶対で、駅で短靴に履き替えるのが当たり前という経験は、多く



1979年10月の志木駅前 (名称は当時のもの)

航空写真で見る
1979年10月撮影の上空からの駅前の写真があります。まだまだ整備途上とはつきりわかります。中央通りの工事はまだ駅まで届いていません。イオンの周辺も変化しています。この時代にもう少しうまくやっていたら、もっと便利な駅前になっていたのではな

今号は文章を少なく、グラフィックのように写真をじっくり見ていただきました。写真はその時の時代背景で、感じ方が大きく変わります。記録写真の楽しみなどあります。果たして10年後は如何に。
(吉田)



2005年11月の志木駅前

の方が口にします。今何気なく歩くあの町、この角も時とともに少しずつ、もしくは大きく変化しています。今私達が目にしている物が20年後にどうなっているか、楽しみではあります。15年ほど前の航空写真と比較してみてください。

言いたい放題 時事 呆言

あなたは最近、腹が立ったことがありますか？

「家庭や仕事で、サークルで、電車やバスで、街中で、コロナ…」など

▶ えっ、6回は行ってって！ ◀

様々な感染防止策により景気が落ち込んでしまった国内観光業だが、その対策の「Go To トラベル」キャンペーンがにぎやかだ。なにせ、旅行代金の35%が値引き、15%分を紙か電子の地域共通クーポン（宿泊最高額6千円）として×宿泊日数分発行される。合わせて50%引きだ。また、宿だけでなく土産物屋や観光業者にもお金が落ちる仕掛けだ。業者としてもおいしい。だが自分は後期高齢者で病気持ち。「自粛しているのに〜」国も期間は延長するが次第に減額？冗談じゃないぞ！医療従事者らは、旅行など行ける訳がないだろー！と怒っているが、不公平極まりない。

(感染怖くて踏ん切りがつかない男 新座77歳)

▶ 30キロ規制区域の市道で ◀

武蔵野線の高架下の市道を車で走っていた。一方通行の極細道で30キロ規制区域。その朝は道路脇を保育園児の集団が歩いていたので30キロを下回る位だったが、気が付くとバックミラーいっぱいランドクルーザーが迫っていた。明らかにあおり運転だった。園児が渡る信号機の手前で減速すると、苛立ち気にクラクションを鳴らしてくる。こちらに落ち度はないと思いついに腹が立ってきた。あいにく顔は見えない。サイドミラーには窓から垂らした男の厳つい腕だけが見えた。徒手空拳の腹立たしさが込み上げてきたが、世間で言う我慢のしどころとはここなのだと思った朝だった。

(男は黙って逃げて勝つ 東北73歳)

▶ 腹立たしいのはアライグマか人間か ◀

聞けば聞くほど腹が立つ。犬の散歩コース途中の藪の中にアライグマが住み着き、夜毎近隣の民家や家庭菜園を荒らしまわっている様だ。手間ひま掛けて防御用の金網を張ったのに、いとも簡単に池の金魚やメダカは食い尽くされ孫の為丹精込めた畑のトウモロコシは収穫直前に全滅したと。市役所に駆除をお願いしたが、私有地なので立ち入れないとの返答。打つ手なし。

目撃情報によれば中型犬程の大きさで凶暴、被害が広がらなければ良いが。それにしても、憎らしいのはアライグマか飼育放棄した人間か。猫の額程の我が家の庭に、用たしに来る野良猫に一夕腹を立てるなど、小さい小さい。

(ヤブニラミの男 道場71歳)

▶ 牡蠣フライの臭みと風味は別 ◀

先日フライ専門店、夕食のおかずに広島の大牡蠣のフライを買ってきた。ところが、くさみが強くて食べられず。1個200円もした。そこで店に電話して苦情を言った。ところが相手は若い男で「店のマニュアルどおりの温度と時間で揚げました！」の一点張り。あきれて電話を切った。フライ表面の色から、短時間に高温で揚げたのは明らか。牡蠣独特の風味ではなく、くさいのだ！中心は半生状態。牡蠣の下処理が不十分だったか、冷凍ものを解凍不十分なまま揚げたか。マニュアル通りならいいわけじゃない。お客に美味しいものを食べてもらいたいという心意気が不足なのよ！

(牡蠣に心かき乱された女 野火止66歳)

▶ 腹立たしさのオンパレード16連発 ◀

ペット可のマンションで迷惑も可と錯覚する飼い主 ▲倉庫前の大型車の路上駐車 ▲道を譲らぬお婆さんの車 ▲レジのおばちゃんの手を止めての世間話 ▲メガネの曇るマスク ▲感染拡大時のGo To! Go To! ▲公共放送の言葉使いの壊れた女子アナ ▲高止まりのスマホ料金 ▲大臣のやらせ会見と突っ込み不足の記者 ▲誰が書くのか出来の悪い原稿丸読みの偉い方たち ▲ごり押しの序章が「丁寧な説明」、困ったときが「緊密に連携」 ▲図に乗る一強与党 ▲コンテンツ不足のBSテレビ ▲存在感のない国連と我が国の野党 ▲芸人多用で安上がりのTV制作 ▲スマホ見て弱者見ぬ振りの優先席の若者 (腹の立たぬ日が欲しい男 栄76歳)

▶ 自粛効果をぶち壊すたわけ者 ◀

遠方からの客人との会合で、コロナ禍の東京丸の内へ恐る恐る出かけた。国民への自粛丸投げの政府には腹が立つが、真面目な国民性の賜物かバスも電車もシーン。感染対策万全がうたい文句の店に着く。会話や飲食でのマスクの着脱はかなり厄介だったが、予定の時間でお開きに。このまま安全に帰宅だと思いきや甘くはなかった。人身事故の煽りで車内は混み合っていた。仕事仲間らしい3人が選りによって私の前のつり革へ。マスクをしてはいるが大声でべらべらと始まった。最後の最後での腹立たしさと、逆切れを恐れて「お黙り」と言いぬ老いの情けなさが入り混じる1日だった。(老いぼれたご意見番 畑中71歳男)

私のゆうゆう エンタメ

映画 音楽 文学 芸能 スポーツ などなど

会員の皆さんのこれまでの人生で、心に残った経験や作品や1シーンなどをご紹介ください。ジャンルは問いません。約380字と写真やイラストです。

Book

(北野 3 吉田 紀生)

山手樹一郎にのめり込んだ青春

「夢介千両みやげ」を目にしたのは、中学時代の貸本屋の本棚だった。以来彼の著作にのめり込んでいく。何の変哲もない、ほぼ勸善懲悪で、展開はどれを読んでもほとんど変わらない。青春期の一時期に、ほぼ読み切り満足した。海音寺潮五郎、山本周五郎、子母沢寛、吉川英治等では感じられない、不思議な大衆時代小説。その後の池波正太郎、藤沢周平とは似て非なのである。40代の始め、春陽堂の全集文庫を見つけて思わず大人買い。昔を懐かしみ、仕事に疲れた時のひと休みに愛読した。まるで志ん生の咄を炬燵に転がって聞いているような、そんな本読みの相棒となって数十年、未だに本棚に収まっている。読後に何も残らず何の足しにもならない、赤茶けた紙に小さな文字で印刷された古びた本の一群。手放すことのできない仲の良い一生の友人となっている。棺の脇で旅のお供に付いて貰う予定だ。



Picture Book

(野火止 7 尾形 三津子)

「100万回生きたねこ」

百万回も死んで百万回も生きた猫の物語で、作者は佐野洋子。小学生以上、シルバー世代にもおすすめの絵本。表紙のとら猫の緑色の目が力強い。猫は王様や手品師などに次々と飼われるが、毎回あっさりと死ぬ。どの飼い主もとても悲しむけれど、猫はいつも平気。そして野良猫に生まれかわったとき、白いメス猫に出会って恋をして家族を作る。絵本の中のとら猫の顔は穏やかである。だがある日、メス猫のほうを年を取って死んでしまう。実は、私は25年前娘と読んでいたとき、ここで悲しくなつて先が読めなかった。だが、今回は落ち着いて続きの頁の絵を初めて見る事ができた。なんと、とら猫は死んだ白猫を抱いて号泣していたのだ。相方に先にいかれたら、私もこんな顔になるのだろうかと思う。何日も泣いた後、とら猫は白猫の隣で静かに亡くなる。もう生き返らないことがわかる。



Trip

(野寺 2 立川 正雄)

西武特急で行くミニ旅行

最近ハマっている事は、西武鉄道の所沢駅から西武秩父駅まで特急に乗って行くことだ。所要時間は約1時間。普通より20～30分ほど早く着く。特別料金500円かかるが座席はゆったりとした感じがあり窓が大きく車窓からの景色が良く見える。思い立った時に行けるし必ず座れるという安心感もある。それに加えてちょっとした旅行気分になれる。暫く前になるが昨年7月、西武秩父駅に降りてから国民宿舎両神荘に行った。バスでも行けるが、3密を避けるためお花畑駅から秩父鉄道に乗り、三峰口駅から小鹿野町営バスを利用した。埼玉県唯一の国民宿舎で露天の温泉がある。蛍が見られるということだが生憎の雨。地酒秩父錦と武甲正宗を2合づつの飲み比べとビールを飲んでこの日を過ごした。地酒はどちらもいける。武甲正宗の方がさっぱりした味だ。さて、次は特急に乗って何処に行こうかな。



Book

(道場 1 太刀川 和男)

「平場の月」

「2019年もっとも泣ける小説」のキャッチで新聞広告に掲載された。新座市図書館の予約は14人待ち。まる1年経っての貸し出しです。舞台は新座・志木・朝霞。中学の同級生が50才になって再会し新たなスタートを切ろうとした矢先、女性が病死してしまう。朝倉かすみ



作で、如何にもありふれた恋愛小説なのだが、中高年の恋愛は一筋縄ではいかないのが身につまされる。老いを意識し始める頃、思い出す度に胸にトゲが刺さる記憶、健康、家族・親戚、友人やら幾つものしがらみの中でもがきながら平場(日常)を生活している。

中高年の恋愛は若い時の一気に燃え上がる恋とは一味違う。ゆっくりと時間をかけて、不器用に、時には思いと反対の言動をとることもある。きれいごとだけでは済まされない事情もあるが、底に流れている相手を思いやる二人の心に共感する。泣けなかったけれど。

シルバー

私のスナップ。



〈会員から寄せていただいた写真〉

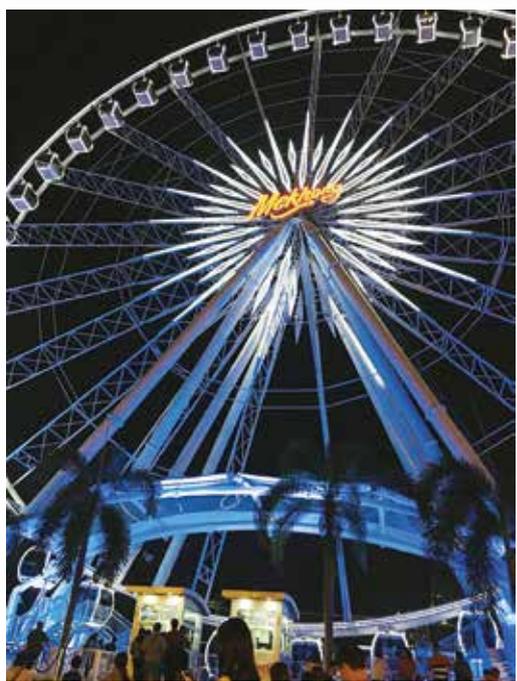
「紅葉の井の頭恩賜公園」森田 行雄（大和田1）
池の紅葉とキラキラ輝くアサガオ型噴水のコラボ。



「冠水した児童公園」館内 實（道場2）
2017年10月。大雨の後の公園。ブランコ、滑り台も浸水。



「高速3回転！バンコクの観覧車」尾形 三津子（野火止）
名前はアジアティックスカイ。日本のつもりで乗るとかなり怖い。



「近場にもあったコキアの群生」茂泉 太郎（畑中1）
コキアと言えば茨城ひたち海浜公園だが、和光樹林公園にも。



日頃のお孫さんのスナップ、ペットやお庭自慢、趣味やサークル・お宝紹介、もちろん旅先の絶景や思い出など、SC事務局迄お寄せください。携帯やスマホの画質設定は標準サイズ以上でOKです。

親睦会だより

コロナに負けず今年も頑張ろう！

親睦会会長 後藤 勝義

新年あけまして

おめでとーございます

会員の皆様にはお健やかに新年をお迎えの事と心からお慶び申し上げます。

公益社団法人新座市シルバー人材センターは昨年40周年の節目を迎え、本年から50周年に向け、新たな一歩を踏み出しました。親睦会も、平成5年設立以来、シルバー人材センターとともに満28年の歳月を積み重ねてまいりました。

改めて歴史の重さを感じております。これも一重に会員の皆様のため努力の賜物と思えます。

親睦会の大きな役割は、センター組織と連携し様々なイベントを提供し、明るく元気な仲間づくりを進めること、と思っております。ところが昨年は、コロ



ナ禍で事業が殆どできていない状況に陥りました。幸い、「新春のつどい」はコロナウイルスが深刻化する前でしたので、例年通り開催できましたが、各サークル活動の年間の成果を発表する「フェスティバル」は中止、日帰り旅行も感染防止のため中止、親睦会総会も少人数で、三密にならないように配慮しながら行いました。

本年は、コロナウイルスの感染も和らぎ、イベントも通常通り開催できる年になりますように、と心から願っております。年明け、

親睦会活動の再開など年始の願いをしながら、私も近くの神社に参拝。会員の皆様も本年、良き年を迎えられますように、お祈り申し上げます。

秋のイベント 日帰り散策 川越名所めぐり

親睦会恒例の「春・秋の日帰りバス旅行会」は、新型コロナウイルス感染症予防のため、令和2年度、中止を余儀なくされました。

そこでバス旅行は断念しましたが、代替案として親睦会は「現地集合・現地解散ガイド付き名所めぐり」を計画しました。

検討の結果、「小江戸川越ガイド付き名所めぐり」を実施することとし、11月27日（金）を予定して定員23名の募集を行いました。

コロナ禍にもかかわらず、17名の応募があり、親睦会役員2名も参加し、合



小江戸川越のランドマーク「時の鐘」

計19名で実施することができました。



蔵造りの街並みを散策

当日は集合時に感染防止のためマスクの着用、手指の消毒・検温を実施。全員の平熱を確認した後、2班に分かれ、川越シルバー人材センター観光ガイド2名の案内で小江戸川越の名所めぐりに出発しました。

ガイドさんの丁寧な説明で、喜多院では、江戸や川越の歴史を観察するとともに、紅葉の庭園も拝見するなど、名所めぐりの散策は新鮮なものとなりました。

喜多院のほか、日々進化する川越の町を見学、電柱のない蔵造り通り、江戸時代を彷彿とさせる「時の鐘」を巡り、料亭ささ川で昼食を摂り解散となりました。

こらむ 一寸一息

帰省する度、必ず訪れる場所がある。わが故郷は福岡県南部に位置する水郷の町・柳川市。柳川市に隣接する大川市には、私が敬愛する古賀政男の記念館がある。

館内に入ると、愛用の品々、楽器等が所狭しと展示されている。運が良ければ館長が奏でる古賀メロディーのギター生演奏が聴けるかも知れない。いつも私もおーデイオ室へ一直線に足を運び、数々の名曲を一心不乱に聞き入る。この一時が堪らないのである。

旅と懐メロ好きの私は過去に吉田正（日立市）、船村徹（日光市）、遠藤実（新潟市）、北島三郎（函館市）の記念館を訪れた。それぞれが故郷を思い出させる場所だった。

新型コロナウイルスが落ち着いたら会津坂下町の春日八郎記念館や朝ドラ『エール』で話題の古閑裕而記念館、数々の名曲とゆかりの地にもふれてみたい。（堤 勇次）

理事会報告

第7回 (10月30日開催)

①新座市シルバー人材センターへの支援要請が報告された。

令和2年10月5日(月)午前10時半より福島理事長、有賀副理事長、船津専務理事が市を訪問。並木市長にSC支援への要請活動を行なった。

◆コロナ禍でSCを取り巻く環境について

◆指定管理状況報告
市長より市財政非常事態宣言の説明がされた。

②厚生労働省職業安定部高齢者雇用安定課視察兼意見交換会の報告がされた
〔日時〕10月13日(金)10時半より正午

〔場所〕SC会議室
〔出席〕厚労省・布川課長 補佐、崎浜係長、磯氏。 県SC連合・矢萩課長、新座市SC船津局長。

【質問事項】

◆前年比会員減少の原因分析は

◆コロナ禍においてホームページでの動画による

入会説明会、入会手続き等の可能性や問題点についてなど

SCからコロナ禍における入退会の状況説明及びSC資料の説明

③正会員(10月分)男性9名、女性3名、合計12名の会員が承認された。

【10月末現在、正会員数は2022名】



第8回 (11月30日開催)

①公益社団法人新座市SC職員給与規程の一部を改正する規程が承認された。

②令和2年度業務監査・会計監査等の中間監査報告

③正会員(11月分)男性19名、女性13名、合計32名の入会が承認された。

【11月末現在、正会員数は2043名】

埼玉県SC連合 新入会員拡大キャンペーン

公益財団法人いきいき埼玉(埼玉県SC連合)では新型コロナウイルス感染症の影響により、会員数が減少している現状に鑑み、新入会員拡大キャンペーンを行うことになりました。

【キャンペーン期間】令和3年1月4日〜令和3年3月31日まで

【対象】キャンペーン期間内に入会を申し込み、入会を認められた方。ただし、新規に入会した方に限りません。

【その他】効果を上げるため、キャンペーン期間中に次の2事業が実施されます。

- ①キャンペーンチラシの作成及びポスティング委託
 - ②会員拡大イベントの開催
- 詳細については令和3年1月15日(金)の地区長会議にて説明する予定。

当SCでも新規入会者促進事業を昨年4月より実施。

紹介者、新規入会者共に粗品を進呈中。更なる新入会員拡大にご協力ください。
*全国シルバー人材センター

「事業協会では、女性活躍促進に向けたシンボルマーク等を作成しました。」



キャッチフレーズは「ありがとうは魔法の言葉」

【表紙の呟き】

写真を撮る者は、ファインダーを透し対象を見つけるとそこに吸い込まれる。

高い崖の端、波の激しい岸辺、暗闇の中、深い霧や吹雪のホワイトアウト。傍から「なぜあんな危険な事を」と見られるが、当人は脇目もふらず撮り続ける。

我が住まいの高層階からは、日の出の瞬間が広く望める。折々の黎明時に早期出勤者の不審そうな目も気にせず撮る。

昨年の初日は絵のように、スカイツリーもはつきりと映え、大騒ぎの一年になるとは想像もせずに撮った。少しは落ち着いた年になることを祈ろう。(吉田)

訃報

- ・竹内 禮三様(82歳) 西堀1丁目
 - ・青木 歌代子様(65歳) 畑中1丁目
 - ・飯沢 実様(86歳) 野火止6丁目
- 謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

編集後記

人間は場所のできるのではなく人間関係と時間の中で生きていくという。

「三密」を避けて生きなければならなかった昨年来、とりわけ人とつながることの貴重さが身に染みた人も多いのではないだろうか。

本誌を編集していつ何時も寂しく思うのは会員の方々からの投稿がまだまだ少ないことだ。密を避けて人間がつながる手段はいくらでもある。こういう時節だからこそ会員の声を広く届けたいと思う。

コロナは必ず終息すると信じている。いずれの御時かグラスを傾けて清濁併呑(せいだくへいどん)そんな日を願いつつ今年も本誌をお届けする。(大島)